

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月9日

【四半期会計期間】 第85期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 株式会社アマダ

【英訳名】 A M A D A C O . , L T D .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 磯 部 任

【本店の所在の場所】 神奈川県伊勢原市石田200番地

【電話番号】 (0463)96-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員財務部門長 三 輪 和 彦

【最寄りの連絡場所】 神奈川県伊勢原市石田200番地

【電話番号】 (0463)96-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員財務部門長 三 輪 和 彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第84期 第3四半期 連結累計期間	第85期 第3四半期 連結累計期間	第84期
会計期間		自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	217,158 (75,262)	258,905 (89,502)	312,658
税引前四半期(当期)利益	(百万円)	28,412	34,346	40,496
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)利益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	20,201 (7,034)	24,039 (7,037)	27,769
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)包括利益	(百万円)	26,997	25,784	43,839
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	462,947	490,621	479,788
総資産額	(百万円)	587,967	623,003	614,439
基本的1株当たり四半期(当期) 利益 (第3四半期連結会計期間)	(円)	58.11 (20.23)	69.15 (20.24)	79.88
希薄化後1株当たり四半期(当期) 利益	(円)	-	-	-
親会社所有者帰属持分比率	(%)	78.7	78.8	78.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	39,036	8,796	56,865
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,539	6,447	7,921
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	18,832	19,447	22,308
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	92,903	89,980	106,791

- (注) 1. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当第3四半期連結累計期間における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりです。なお、文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、継続的なエネルギー価格の高騰やサプライチェーンの混乱による部材不足の影響を受け、先行き不透明感などによる設備投資マインドの低下から景気減速が懸念されましたが、社会課題解決に向けた脱炭素社会への移行や地政学リスクに対するサプライチェーン再編による自国や周辺国への製造移転等から、環境投資や生産性向上に資する設備投資需要が底堅く推移しました。このような環境のもと、当社グループの業績は、高水準な受注環境に対し、部材不足の影響を受けつつも、代替品の調達や設計変更等により生産体制を維持、拡大することで、売上、利益ともに拡大しました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は次のとおりです。

	売上収益			営業利益	親会社の所有者に帰属する 四半期利益
	国内	海外	合計		
当第3四半期連結累計期間 (百万円)	96,432	162,472	258,905	35,000	24,039
前第3四半期連結累計期間 (百万円)	79,922	137,235	217,158	26,552	20,201
増減率	20.7%	18.4%	19.2%	31.8%	19.0%

(売上収益)

当第3四半期連結累計期間の売上収益は258,905百万円（前年同期比19.2%増）となりました。売上収益の内訳は、国内96,432百万円（前年同期比20.7%増）、海外162,472百万円（前年同期比18.4%増）となりました。詳細については、事業別・地域別の成績に記載のとおりです。

(営業利益)

営業利益は、増収効果や販売価格の改善に加え、為替の円安推移等により、35,000百万円（前年同期比31.8%増）となりました。

(親会社の所有者に帰属する四半期利益)

親会社の所有者に帰属する四半期利益については、24,039百万円（前年同期比19.0%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

事業別・地域別の成績

事業別売上収益、営業利益及び地域別の状況は、以下のとおりです。

(事業別売上収益、営業利益の状況)

事業別	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減率 (%)
	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	
金属加工機械事業					
売上収益	177,748	81.9	212,652	82.1	19.6
(板金部門)	(158,865)	(73.2)	(189,599)	(73.2)	(19.3)
(微細溶接部門)	(18,882)	(8.7)	(23,052)	(8.9)	(22.1)
(調整額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
営業利益	21,537	-	28,762	-	33.5
金属工作機械事業					
売上収益	38,479	17.7	45,292	17.5	17.7
(切削・研削盤部門)	(27,532)	(12.7)	(31,107)	(12.0)	(13.0)
(プレス部門)	(10,947)	(5.0)	(14,184)	(5.5)	(29.6)
(調整額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
営業利益	4,366	-	5,552	-	27.2
その他(注)					
売上収益	929	0.4	961	0.4	3.4
営業利益	648	-	685	-	5.7
調整額					
売上収益	-	-	-	-	-
営業利益	-	-	-	-	-
合計(連結)					
売上収益	217,158	100.0	258,905	100.0	19.2
営業利益	26,552	-	35,000	-	31.8

(注) その他は、遊休地の有効利用を目的としたショッピングセンター等の不動産賃貸事業等です。

(金属加工機械事業)

売上収益は212,652百万円(前年同期比19.6%増)、営業利益は28,762百万円(前年同期比33.5%増)となりました。

<板金部門>

地 域	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減率 (%)
	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	
日 本	54,346	34.2	67,265	35.5	23.8
海 外	104,519	65.8	122,334	64.5	17.0
(北米)	(44,253)	(27.9)	(55,575)	(29.3)	(25.6)
(欧州)	(37,237)	(23.4)	(39,658)	(20.9)	(6.5)
(アジア他)	(23,028)	(14.5)	(27,099)	(14.3)	(17.7)
合 計	158,865	100.0	189,599	100.0	19.3

(注) 本表の地域別売上収益は、顧客の所在地別の売上収益です。(以下の表も同様。)

なお、当第3四半期累計期間における板金部門の地域別の経営環境は以下のとおりです。

日本：脱炭素化や人手不足等を背景とした省エネ・高生産性商品への需要が高まる中、政府補助金の後押しもあり、半導体製造装置や建設機械、工作機械、セルフレジ向けなど幅広い産業で設備投資需要が堅調に推移しました。また商品別では、ファイバーレーザマシンやベンディング自動化マシン等の高付加価値商品の販売が増加し、売上収益は67,265百万円(前年同期比23.8%増)となりました。

北米：インフレの高進とその対策としての金融引き締めによる影響等から景気の減速が懸念されたものの、米国及び周辺国へのサプライチェーンの再構築等による設備投資需要が期を通じて堅調に推移したこと、また円安の影響もあり、売上収益は55,575百万円(前年同期比25.6%増)となりました。

欧州：ロシアのウクライナ侵攻の長期化に伴うエネルギー価格の高騰などにより、一部のユーザに設備投資の手控えが見られました。一方で、製造現場における省エネに対する意識の高まりや東欧諸国等への工場移転による設備投資需要が見られ、政府による税制優遇施策も下支えとなって、売上収益は39,658百万円(前年同期比6.5%増)となりました。

アジア他：中国では、ゼロコロナ政策からの転換とともに、第3四半期に入り緩やかな回復が見られましたが、外資系メーカーによる他地域への工場移転等が影響したことから、減収となりました。一方で、ASEANを中心にサプライチェーン再編の動きが加速化する等、販売が大幅に拡大したことで、売上収益は27,099百万円(前年同期比17.7%増)となりました。

< 微細溶接部門 >

地 域	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減率 (%)
	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	
日 本	3,505	18.6	3,910	17.0	11.5
海 外	15,377	81.4	19,142	83.0	24.5
(北米)	(3,436)	(18.2)	(5,817)	(25.2)	(69.3)
(欧州)	(3,357)	(17.8)	(4,279)	(18.6)	(27.5)
(アジア他)	(8,582)	(45.4)	(9,044)	(39.2)	(5.4)
合 計	18,882	100.0	23,052	100.0	22.1

e-mobility市場の活況を背景に電装品関連が好調を維持し、全地域において増収となりました。特に北米では医療機器、太陽光発電関連の需要が拡大し、インドではバイク向けのEV関連需要が好調に推移しました。

(金属工作機械事業)

売上収益は45,292百万円(前年同期比17.7%増)、営業利益は5,552百万円(前年同期比27.2%増)となりました。

< 切削・研削盤部門 >

地 域	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減率 (%)
	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	
日 本	12,624	45.9	12,973	41.7	2.8
海 外	14,908	54.1	18,134	58.3	21.6
合 計	27,532	100.0	31,107	100.0	13.0

国内の切削部門では、引き続き供給制約による部材の長納期化等により低調に推移しましたが、研削盤部門では新商品の投入も奏功し、半導体・電子部品向けへの需要が拡大しました。一方海外では、特に北米において切削マシンの販売が好調に推移したことで増収となりました。

< プレス部門 >

地 域	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減率 (%)
	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	
日 本	8,527	77.9	11,338	79.9	33.0
海 外	2,419	22.1	2,846	20.1	17.6
合 計	10,947	100.0	14,184	100.0	29.6

主要顧客である自動車部品関連業界では、自動車メーカーにおける減産の影響が懸念されましたが、国内では生産性の向上を目的としたプレスマシンと周辺装置を組み合わせた自動化商品が好調に推移し、大幅増収となりました。

なお、各部門別の状況を合算した主要地域の状況は以下のとおりです。

(地域別売上収益の状況)

地 域	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減率 (%)
	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	売上収益 (百万円)	構成比 (%)	
日 本	79,922	36.8	96,432	37.2	20.7
海 外	137,235	63.2	162,472	62.8	18.4
(北米)	(53,722)	(24.7)	(69,881)	(27.0)	(30.1)
(欧州)	(45,697)	(21.1)	(49,881)	(19.3)	(9.2)
(アジア他)	(37,815)	(17.4)	(42,710)	(16.5)	(12.9)
合 計	217,158	100.0	258,905	100.0	19.2

(2) 財政状態の分析

財政状態の概要及び分析は以下のとおりです。

	前連結会計年度末 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2022年12月31日)	増減
流動資産(百万円)	364,132	376,436	12,304
非流動資産(百万円)	250,307	246,566	3,740
総資産(百万円)	614,439	623,003	8,563
負債(百万円)	130,405	128,109	2,296
資本(百万円)	484,034	494,894	10,860
親会社所有者帰属持分比率	78.1%	78.8%	0.7%pt

(総資産)

流動資産については、部材調達の高納期化を背景とした原材料・仕掛品の積み増し等により前連結会計年度末比12,304百万円増加の376,436百万円となりました。非流動資産は設備投資に伴い、有形固定資産が増加した一方で、投資有価証券の償還等により、前連結会計年度末比3,740百万円減少の246,566百万円となりました。以上から、総資産は前連結会計年度末と比較して、8,563百万円増加し、623,003百万円となりました。

(負債及び資本)

負債は長期借入金の返済等により前連結会計年度末と比較して2,296百万円減少し、128,109百万円となりました。また資本については、利益剰余金の増加により前連結会計年度末比10,860百万円増加の494,894百万円となり、親会社所有者帰属持分比率は前連結会計年度末の78.1%から78.8%へ増加しました。

(3) キャッシュ・フローの状況

連結キャッシュ・フローの区分別状況は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動の結果、獲得した資金は8,796百万円であり、前年同期と比較し30,240百万円減少しました。その主な要因は、棚卸資産の増加や法人所得税の支払額の増加によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動の結果、支出した資金は6,447百万円であり、前年同期と比較し1,908百万円支出額が増加しました。その主な要因は、設備投資に伴う有形固定資産の増加によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動の結果、支出した資金は19,447百万円であり、前年同期と比較し615百万円支出額が増加しました。その主な要因は配当金の支払額が増加したことによるものです。

以上の結果、連結キャッシュ・フローについては、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ16,811百万円減の89,980百万円となりました。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

コロナウイルス感染症による影響については、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記」の「4. 重要な会計上の見積り及び判断」をご参照ください。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は4,526百万円です。

(7) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

(8) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績に著しい増減はありません。

(9) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	550,000,000
計	550,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	359,115,217	359,115,217	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	359,115,217	359,115,217		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	359,115	-	54,768	-	163,199

(5) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2022年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 11,456,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 347,061,300	3,470,613	
単元未満株式	普通株式 597,017		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	359,115,217		
総株主の議決権		3,470,613	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ3,200株(議決権の数32個)及び39株含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式13株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アマダ	神奈川県伊勢原市石田200 番地	11,456,900		11,456,900	3.19
計		11,456,900		11,456,900	3.19

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」(以下「IAS第34号」という。)に準拠して作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		106,791	89,980
営業債権及びその他の債権	11	123,468	119,109
棚卸資産		101,885	132,426
その他の金融資産	11	23,388	24,586
その他の流動資産		8,598	10,334
流動資産合計		364,132	376,436
非流動資産			
有形固定資産		164,429	175,573
のれん		6,251	6,392
無形資産		11,900	11,650
持分法で会計処理されている 投資		487	704
その他の金融資産	11	52,834	32,993
繰延税金資産		5,343	9,703
その他の非流動資産		9,059	9,548
非流動資産合計		250,307	246,566
資産合計		614,439	623,003

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務		58,828	58,421
借入金		4,822	4,497
未払法人所得税		9,120	6,134
その他の金融負債	11	4,172	3,935
引当金		2,076	2,170
その他の流動負債		32,635	34,633
流動負債合計		111,655	109,793
非流動負債			
借入金	11	2,244	884
その他の金融負債	11	9,712	10,262
退職給付に係る負債		3,025	3,199
引当金		7	7
繰延税金負債		503	943
その他の非流動負債		3,255	3,017
非流動負債合計		18,749	18,315
負債合計		130,405	128,109
資本			
資本金		54,768	54,768
資本剰余金		143,883	143,883
利益剰余金		269,067	278,157
自己株式		12,095	12,097
その他の資本の構成要素		24,164	25,909
親会社の所有者に帰属する 持分合計		479,788	490,621
非支配持分		4,246	4,273
資本合計		484,034	494,894
負債及び資本合計		614,439	623,003

(2) 【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上収益	6,7	217,158	258,905
売上原価		123,920	145,395
売上総利益		93,237	113,510
販売費及び一般管理費		67,396	79,030
その他の収益		1,062	1,143
その他の費用		350	622
営業利益	6	26,552	35,000
金融収益	11	2,320	2,250
金融費用	11	607	3,113
持分法による投資利益		147	208
税引前四半期利益		28,412	34,346
法人所得税費用		8,052	10,094
四半期利益		20,360	24,252
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		20,201	24,039
非支配持分		159	212
四半期利益		20,360	24,252
1株当たり四半期利益	10		
基本的1株当たり四半期利益(円)		58.11	69.15
希薄化後1株当たり四半期利益(円)		-	-

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
売上収益	6	75,262	89,502
売上原価		42,349	50,072
売上総利益		32,913	39,429
販売費及び一般管理費		24,079	28,085
その他の収益		294	277
その他の費用		141	433
営業利益	6	8,986	11,188
金融収益	11	1,263	1,304
金融費用	11	613	2,541
持分法による投資利益		43	69
税引前四半期利益		9,679	10,019
法人所得税費用		2,601	2,871
四半期利益		7,078	7,148
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		7,034	7,037
非支配持分		44	110
四半期利益		7,078	7,148
1株当たり四半期利益	10		
基本的1株当たり四半期利益(円)		20.23	20.24
希薄化後1株当たり四半期利益(円)		-	-

(3) 【要約四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期利益	20,360	24,252
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する資本性金融資産	2,055	5,011
項目合計	2,055	5,011
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	5,002	6,769
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する負債性金融資産	3	8
持分法によるその他の包括利益	8	13
項目合計	5,007	6,774
その他の包括利益合計	7,062	1,762
四半期包括利益	27,423	26,014
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	26,997	25,784
非支配持分	426	229
四半期包括利益	27,423	26,014

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
四半期利益	7,078	7,148
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する資本性金融資産	2,802	3,002
項目合計	2,802	3,002
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	4,021	10,028
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する負債性金融資産	3	2
持分法によるその他の包括利益	1	0
項目合計	4,019	10,030
その他の包括利益合計	6,821	13,032
四半期包括利益	13,899	5,884
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	13,703	5,730
非支配持分	196	153
四半期包括利益	13,899	5,884

(4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分								非支配持分	資本合計	
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素						合計
						その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	在外営業活動体の換算差額	持分法によるその他の包括利益	合計			
2021年4月1日残高		54,768	143,883	252,315	12,092	4,291	3,915	4	8,202	447,077	3,735	450,813
四半期利益		-	-	20,201	-	-	-	-	-	20,201	159	20,360
その他の包括利益		-	-	-	-	2,052	4,735	8	6,796	6,796	266	7,062
四半期包括利益		-	-	20,201	-	2,052	4,735	8	6,796	26,997	426	27,423
配当金	8	-	-	11,125	-	-	-	-	-	11,125	144	11,270
自己株式の取得		-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	2
自己株式の処分		-	0	-	0	-	-	-	-	0	-	0
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替		-	-	13	-	13	-	-	13	-	-	-
所有者との取引額等合計		-	0	11,139	2	13	-	-	13	11,127	144	11,272
2021年12月31日残高		54,768	143,883	261,376	12,094	6,357	8,651	3	15,012	462,947	4,017	466,964

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分								非支配持分	資本合計	
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素						合計
						その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	在外営業活動体の換算差額	持分法によるその他の包括利益	合計			
2022年4月1日残高		54,768	143,883	269,067	12,095	6,101	18,052	9	24,164	479,788	4,246	484,034
四半期利益		-	-	24,039	-	-	-	-	-	24,039	212	24,252
その他の包括利益		-	-	-	-	5,020	6,752	13	1,745	1,745	17	1,762
四半期包括利益		-	-	24,039	-	5,020	6,752	13	1,745	25,784	229	26,014
配当金	8	-	-	14,949	-	-	-	-	-	14,949	202	15,151
自己株式の取得		-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	2
自己株式の処分		-	0	-	0	-	-	-	-	0	-	0
所有者との取引額等合計		-	0	14,949	2	-	-	-	-	14,951	202	15,154
2022年12月31日残高		54,768	143,883	278,157	12,097	1,080	24,805	23	25,909	490,621	4,273	494,894

(5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	28,412	34,346
減価償却費及び償却費	12,970	13,244
金融収益及び金融費用	989	2,254
持分法による投資利益	147	208
固定資産除売却損益	77	390
棚卸資産の増減	16,794	28,127
営業債権及びその他の債権の増減	7,244	8,152
営業債務及びその他の債務の増減	9,792	3,175
退職給付に係る負債の増減	24	28
引当金の増減	131	35
その他	1,950	3,598
小計	42,624	23,285
利息の受取額	546	660
配当金の受取額	138	91
利息の支払額	105	169
法人所得税の支払額	4,167	15,071
営業活動によるキャッシュ・フロー	39,036	8,796
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額	1,458	4,605
有価証券の取得による支出	18,000	19,000
有価証券の売却及び償還による収入	19,600	23,500
投資有価証券の売却及び償還による収入	3,133	11,425
有形固定資産の取得による支出	9,077	14,558
有形固定資産の売却による収入	508	673
無形資産の取得による支出	2,328	3,257
その他	166	624
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,539	6,447
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2	344
短期借入れの返済による支出	4	-
短期借入金の純増減額	6,843	641
長期借入れによる収入	2,222	18
長期借入れの返済による支出	1,110	2,054
リース負債の返済による支出	1,801	1,971
自己株式の取得による支出	2	2
配当金の支払額	11,143	14,938
非支配持分への配当金の支払額	149	202
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,832	19,447
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,370	287
現金及び現金同等物の増減額	17,035	16,811
現金及び現金同等物の期首残高	75,868	106,791
現金及び現金同等物の四半期末残高	92,903	89,980

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

株式会社アマダ(以下、当社もしくは親会社)は日本に所在する株式会社であります。登記上の本社の住所は神奈川県伊勢原市石田200番地であります。当社の要約四半期連結財務諸表は、2022年12月31日を期末日とし、当社及びその子会社(以下、当社グループ)、並びに当社グループの関連会社に対する持分から構成されております。当社グループは金属加工機械器具・金属工作機械器具の開発、製造、販売、サービス等(ファイナンスを含む。)を主要な事業としております(「6.セグメント情報」参照)。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同93条の規定により、IAS第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

(2) 測定の基礎

資産及び負債の残高は、公正価値で測定されている特定の金融商品等を除き、取得原価に基づき計上しております。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円(百万円単位、単位未満切捨て)で表示しております。

3. 重要な会計方針

要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を用いて算定しております。

4. 重要な会計上の見積り及び判断

当社グループは、要約四半期連結財務諸表の作成において、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、会計上の見積り及び仮定を用いております。これらの見積り及び仮定は、過去の経験及び利用可能な情報を収集し、決算日において合理的であると考えられる様々な要因等を勘案した経営者の最善の判断に基づいております。しかしながら、その性質上、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しております。これらの見積りの見直しによる影響は、当該見積りを見直した期間及び将来の期間において認識しております。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、2022年3月31日に終了する連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

なお、当社グループの当第3四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症の影響は、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した状況・前提条件の範囲内であり、当該仮定のもと、会計上の見積りに影響を与える項目についても評価を実施し、この結果、当第3四半期連結累計期間の要約四半期連結財務諸表における重要な影響はないと判断しております。

5. 事業の季節性

当社グループは、多くの顧客の年度末にあたる3月に納期が集中するため、第4四半期連結会計期間の売上収益及び営業費用が他の四半期連結会計期間と比較して多くなる傾向にあります。

6. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものとあります。

当社グループの事業は、板金・微細溶接製品を生産・販売している「金属加工機械事業」と、切削・研削盤・プレス製品を生産・販売している「金属工作機械事業」の2つに分かれており、「金属加工機械事業」は当社及び株式会社アマダウエルドテックが、「金属工作機械事業」は株式会社アマダマシナリー及び株式会社アマダプレスシステムが、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは、生産・販売体制を基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「金属加工機械事業」及び「金属工作機械事業」の2つを報告セグメントとしております。

「金属加工機械事業」は、レーザマシン、パンチプレス、プレスブレーキ等の板金市場向け商品群と、微細溶接機を中心とした微細溶接市場向け商品群を取り扱っており、また、「金属工作機械事業」は、金切帯鋸盤をはじめとした切削市場向け商品群と、研削盤等の研削盤市場向け商品群及びメカニカルプレスを中心としたプレス市場向け商品群を取り扱っております。

(2) 報告セグメントの情報

報告されている事業セグメントの会計方針は、要約四半期連結財務諸表の会計方針と概ね同一であります。

当社グループの報告セグメントごとの情報は次のとおりです。なお、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であり、セグメント間の取引は市場価格を勘案し決定された仕切価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位：百万円)

	金属加工 機械	金属工作 機械	その他	合計	調整額	要約四半期 連結財務諸 表計上額
売上収益						
外部顧客からの売上収益	177,748	38,479	929	217,158	-	217,158
セグメント間の売上収益	-	-	-	-	-	-
合計	177,748	38,479	929	217,158	-	217,158
セグメント利益	21,537	4,366	648	26,552	-	26,552
金融収益						2,320
金融費用						607
持分法による投資利益						147
税引前四半期利益						28,412

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位：百万円)

	金属加工 機械	金属工作 機械	その他	合計	調整額	要約四半期 連結財務諸 表計上額
売上収益						
外部顧客からの売上収益	212,652	45,292	961	258,905	-	258,905
セグメント間の売上収益	-	-	-	-	-	-
合計	212,652	45,292	961	258,905	-	258,905
セグメント利益	28,762	5,552	685	35,000	-	35,000
金融収益						2,250
金融費用						3,113
持分法による投資利益						208
税引前四半期利益						34,346

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、営業利益と調整を行っております。

前第3四半期連結会計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

(単位：百万円)

	金属加工 機械	金属工作 機械	その他	合計	調整額	要約四半期 連結財務諸 表計上額
売上収益						
外部顧客からの売上収益	61,536	13,407	318	75,262	-	75,262
セグメント間の売上収益	-	-	-	-	-	-
合計	61,536	13,407	318	75,262	-	75,262
セグメント利益	7,162	1,605	218	8,986	-	8,986
金融収益						1,263
金融費用						613
持分法による投資利益						43
税引前四半期利益						9,679

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおります。
2. セグメント利益は、営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

(単位：百万円)

	金属加工 機械	金属工作 機械	その他	合計	調整額	要約四半期 連結財務諸 表計上額
売上収益						
外部顧客からの売上収益	73,794	15,386	321	89,502	-	89,502
セグメント間の売上収益	-	-	-	-	-	-
合計	73,794	15,386	321	89,502	-	89,502
セグメント利益	9,146	1,841	200	11,188	-	11,188
金融収益						1,304
金融費用						2,541
持分法による投資利益						69
税引前四半期利益						10,019

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおります。
2. セグメント利益は、営業利益と調整を行っております。

7. 売上収益

当社グループは、金属加工機械事業、金属工作機械事業及びその他事業を基本にして組織が構成されており、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び事業の評価をするために、定期的に検討を行う対象としていることから、これらの事業で計上する収益を売上収益として表示しております。また、売上収益は顧客の所在地に基づき地域別に分解しております。これらの分解した売上収益と各報告セグメントの売上収益との関連は以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位：百万円)

セグメント	金属加工機械	金属工作機械	その他	合計
主な地域市場				
日本	57,851	21,151	919	79,922
北米	47,690	6,031	-	53,722
欧州	40,595	5,102	-	45,697
アジア他	31,610	6,194	10	37,815
合計	177,748	38,479	929	217,158

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位：百万円)

セグメント	金属加工機械	金属工作機械	その他	合計
主な地域市場				
日本	71,175	24,311	945	96,432
北米	61,393	8,487	-	69,881
欧州	43,938	5,942	-	49,881
アジア他	36,144	6,550	16	42,710
合計	212,652	45,292	961	258,905

金属加工機械事業においては、板金・微細溶接製品を生産・販売しており、レーザマシン、パンチプレス、プレスブレーキ等の板金市場向け商品群と、微細溶接機を中心とした微細溶接市場向け商品群を取り扱っております。

金属工作機械事業においては、切削・研削盤・プレス製品を生産・販売しており、金切帯鋸盤をはじめとした切削市場向け商品群と、研削盤等の研削盤市場向け商品群及びメカニカルプレスを中心としたプレス市場向け商品群を取り扱っております。

その他事業においては、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおります。

また、売上収益には割賦販売に係る金利収益が前第3四半期連結累計期間において1,471百万円、当第3四半期連結累計期間において1,518百万円含まれております。

8. 配当金

配当金支払額

配当金の支払額は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	5,214	15.00	2021年3月31日	2021年6月28日
2021年11月11日 取締役会	普通株式	5,910	17.00	2021年9月30日	2021年12月7日

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	7,300	21.00	2022年3月31日	2022年6月29日
2022年11月10日 取締役会	普通株式	7,648	22.00	2022年9月30日	2022年12月6日

9. 資本及びその他の資本項目

(1) 授権株式数及び発行済株式数

授権株式数及び発行済株式数の増減は、次のとおりであります。

(単位：株)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
授権株式数		
普通株式	550,000,000	550,000,000
発行済株式数		
期首残高	359,115,217	359,115,217
期中増加	-	-
期中減少	-	-
四半期末残高	359,115,217	359,115,217

(注) 当社の発行する株式は、すべて権利内容に何ら限定のない無額面普通株式であります。

(2) 自己株式

自己株式の増減は、次のとおりであります。

(単位：株)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
期首残高	11,452,346	11,455,307
期中増加(注)1	2,199	2,230
期中減少(注)2	44	51
四半期末残高	11,454,501	11,457,486

(注) 1. 単元未満株式の買取によるものであります。

2. 単元未満株式の買増請求によるものであります。

10. 1 株当たり利益

基本的 1 株当たり四半期利益の算定上の基礎

基本的 1 株当たり四半期利益及びその算定上の基礎は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 12 月 31 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 12 月 31 日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益		
親会社の所有者に帰属する四半期利益	20,201	24,039
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益	-	-
基本的 1 株当たり四半期利益の計算に 使用する四半期利益	20,201	24,039
期中平均普通株式数	347,661,741株	347,658,724株
基本的 1 株当たり四半期利益	58.11円	69.15円

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結会計期間 (自 2021年 10 月 1 日 至 2021年 12 月 31 日)	当第 3 四半期連結会計期間 (自 2022年 10 月 1 日 至 2022年 12 月 31 日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益		
親会社の所有者に帰属する四半期利益	7,034	7,037
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益	-	-
基本的 1 株当たり四半期利益の計算に 使用する四半期利益	7,034	7,037
期中平均普通株式数	347,660,973株	347,657,911株
基本的 1 株当たり四半期利益	20.23円	20.24円

(注) 希薄化後 1 株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

11. 金融商品

(1) 金融商品の公正価値と帳簿価額の比較

金融資産及び金融負債の公正価値と帳簿価額の比較は、次のとおりであります。なお、公正価値で測定する金融商品及び帳簿価額と公正価値が極めて近似している金融商品及びリース負債については、次の表には含めておりません。

	(単位：百万円)			
	前連結会計年度 (2022年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
金融資産				
営業債権及びその他の債権	123,468	124,292	119,109	118,105
合計	123,468	124,292	119,109	118,105
金融負債				
借入金（非流動）	2,244	2,221	884	813
合計	2,244	2,221	884	813

(注) 「営業債権及びその他の債権」及び「借入金（非流動）」の公正価値ヒエラルキーのレベルは3に該当しております。

上記金融商品の公正価値の算定方法は、次のとおりであります。

(営業債権及びその他の債権)

営業債権及びその他の債権については、一定の期間ごとに区分した債権毎に、債権の額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値に基づいて測定しております。

(借入金（非流動）)

借入金（非流動）については、将来キャッシュ・フローを新規に同様の借入契約を実行した場合に想定される利率で割り引いた現在価値に基づいて測定しております。

(2) 公正価値で測定する金融商品のレベル別分類

公正価値で測定する金融商品は、公正価値の測定に用いた評価技法へのインプットの観察可能性に応じて、公正価値ヒエラルキーのレベルを次のように分類しております。

レベル1：活発な市場における公表価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察可能な市場データに基づかないインプットを含む、評価技法から算出された公正価値

公正価値の測定に使用される公正価値ヒエラルキーのレベルは、公正価値の測定に用いた重要なインプットのうち、最もレベルの低いインプットに応じて決定しております。

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替が生じた場合には、各四半期末日に発生したものと認識しております。

公正価値で測定する金融資産及び金融負債の内訳

公正価値ヒエラルキーのレベルごとに分類した、経常的に公正価値で測定する金融資産及び金融負債の内訳は、次のとおりであります。なお、前連結会計年度及び当第3四半期連結会計期間において、レベル間の重要な振替が行われた金融商品はありません。

前連結会計年度(2022年3月31日)

(単位：百万円)				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産				
その他の金融資産				
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式	17,616	146	-	17,763
債券	-	3,515	-	3,515
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式	-	-	144	144
債券	-	11,931	-	11,931
投資信託	-	11,132	8,057	19,190
デリバティブ資産	-	5	-	5
合計	17,616	26,732	8,202	52,551
金融負債				
その他の金融負債				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	-	1,295	-	1,295
合計	-	1,295	-	1,295

当第3四半期連結会計期間(2022年12月31日)

(単位：百万円)				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産				
その他の金融資産				
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式	10,308	146	-	10,454
債券	-	2,497	-	2,497
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式	-	-	144	144
債券	-	10,146	-	10,146
投資信託	-	9,269	-	9,269
デリバティブ資産	-	796	-	796
合計	10,308	22,857	144	33,309
金融負債				
その他の金融負債				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	-	23	-	23
合計	-	23	-	23

上記金融商品の公正価値の算定方法は、次のとおりであります。

(株式)

上場株式は取引所の価格、非上場株式は純資産価値に基づく評価技法等を用いて公正価値を算定しております。

(債券、投資信託、デリバティブ資産及び負債)

債券、投資信託、デリバティブ資産及び負債は、取引金融機関から提示された公正価値を使用しております。

レベル3に区分した金融商品の調整表

公正価値ヒエラルキーレベル3に区分した金融商品は、株式、投資信託により構成されております。

期首残高から期末残高への調整表は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	
	その他の包括利益 を通じて公正価値 で測定する金融資 産	純損益を通じて公 正価値で測定する 金融資産	その他の包括利益 を通じて公正価値 で測定する金融資 産	純損益を通じて公 正価値で測定する 金融資産
期首残高	-	7,546	-	8,202
利得又は損失				
純損益(注)1	-	506	-	437
その他の包括利益	-	-	-	-
売却又は償還	-	193	-	8,495
四半期末残高	-	7,859	-	144

(注) 1. 純損益に認識した利得又は損失は、要約四半期連結損益計算書上の「金融収益」又は「金融費用」に表示しております。また、純損益に認識した利得又は損失合計のうち、第3四半期連結会計期間末において保有する金融商品に係るものは、前第3四半期連結累計期間において、506百万円であります。当第3四半期連結累計期間において、該当事項はありません。

2. レベル3に区分した資産、負債については適切な権限者に承認された公正価値測定の評価方針及び手続に従い、担当部署が対象資産、負債の評価方法を決定し、公正価値を測定しております。公正価値の測定結果については適切な責任者が承認しております。

12. 重要な後発事象

該当事項はありません。

13. 承認日

2023年2月9日に当要約四半期連結財務諸表は、代表取締役社長 磯部任によって承認されております。

2 【その他】

中間配当

第85期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の中間配当については、2022年11月10日開催の取締役会において、2022年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、実施いたしました。

中間配当に関する事項

(1) 配当財産の種類

金銭

(2) 株主に対する配当財産の割当に関する事項及びその総額

普通株式 1株につき金22円 総額7,648百万円

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2022年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月9日

株式会社アマダ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 東海林 雅人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古賀 祐一郎

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アマダの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、株式会社アマダ及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。